

第五次地域管理経営計画書

(千曲川下流森林計画区)

計画期間 自 平成27年4月1日
至 平成32年3月31日

中部森林管理局

この地域管理経営計画書は、国有林野の管理経営に関する法律第6条の規定に基づき、同法第4条の管理経営基本計画に即し、国有林の地域別の森林計画と調和して、対象とする国有林野の自然的、社会的諸条件の特性に応じた管理経営の基本となる事項について中部森林管理局長が定める計画である。

この地域管理経営計画（以下、「本計画」という）の計画期間は平成27年4月1日から平成32年3月31日までの5年間である。

目 次

はじめに	・・・	1
1 国有林野の管理経営に関する基本的な事項	・・・	2
(1) 国有林野の管理経営の基本方針	・・・	2
(2) 機能類型に応じた管理経営に関する事項	・・・	7
(3) 森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた 貢献に必要な事項	・・・	14
(4) 主要事業の実施に関する事項	・・・	16
(5) その他必要な事項	・・・	17
2 国有林野の維持及び保存に関する事項	・・・	18
(1) 巡視に関する事項	・・・	18
(2) 森林病虫害の駆除又はそのまん延の防止に関する事項	・・・	18
(3) 特に保護を図るべき森林に関する事項	・・・	19
(4) その他必要な事項	・・・	20
3 林産物の供給に関する事項	・・・	21
(1) 林産物の安定的な取引関係の確立に関する事項	・・・	21
(2) 国産材の安定供給体制の構築に向けた貢献	・・・	21
4 国有林野の活用に関する事項	・・・	22
(1) 国有林野の活用の推進方針	・・・	22
(2) 国有林野の活用の具体的手法	・・・	22
(3) その他必要な事項	・・・	22
5 公益的機能維持増進協定に基づく林道の開設その他国有林野 と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民 有林野の整備及び保全に関する事項	・・・	22
(1) 公益的機能維持増進協定の締結に関する基本的な方針	・・・	22
(2) 国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認 められる民有林野の整備及び保全に関する事項	・・・	23
6 国民の参加による森林の整備に関する事項	・・・	23
(1) 国民参加の森林に関する事項	・・・	23
(2) 分収林に関する事項	・・・	25
(3) その他必要な事項	・・・	25
7 その他国有林野の管理経営に関し必要な事項	・・・	26
(1) 林業技術の開発、指導及び普及に関する事項	・・・	26
(2) 地域の振興に関する事項	・・・	26

はじめに

我が国の国土面積の2割、森林面積の3割にあたる国有林野の管理経営は、森林経営の用に供するものとされた国有財産として、①国土の保全その他国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るとともに、併せて、②林産物を持続的かつ計画的に供給し、③国有林野の活用によりその所在する地域の産業の振興又は住民の福祉の向上に寄与することを目標として行うこととされている。

このような中で、森林に対する国民の要請は、国土の保全や水源の涵養^{かん}に加え、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、森林環境教育の推進、森林とのふれあいや国民参加の森林^{もり}づくり等の面での期待が高まるなど、公益的機能の発揮に重点を置きつつさらに多様化してきた。特に、国有林野に対しては、地球温暖化防止、生物多様性の保全の面での期待が大きくなってきた。加えて、国有林野と民有林野を通じた公益的機能の発揮が強く期待されているものの、地域によっては、国有林野に隣接する民有林野において十分な整備や保全が行われていない状況も見られる。また、戦後造成した人工林が本格的な利用期を迎える中、我が国の林政は、森林・林業の再生に向け、大転換を進めており、国有林野事業については、民有林への指導やサポートなど我が国の森林・林業の再生に貢献することが求められている。

こうしたことを踏まえ、国有林野事業については、公益的機能の発揮のための事業や、民有林への指導やサポート、木材の安定供給等の事業を、民有林に係る施策との一体的な推進を図りつつ、一層計画的に実施していくため、平成25年度から、それまでの特別会計により企業的に運営する事業から一般会計において実施する事業に移行した。

従って、国有林野事業は、冒頭のもくろみ^{めくろみ}の下、森林・林業や国有林野事業に対する国民の多様な要請と期待を踏まえつつ、一般会計において国民共有の財産である国有林野を名実ともに「国民の森林^{もり}」とするよう、公益重視の管理経営を一層推進するとともに、その組織・技術力・資源を活用して森林・林業再生へ貢献するための取組を進めていくこととする。

本計画は、このような国有林野を取り巻く状況を踏まえ、公益的機能の維持増進を旨とする管理経営を推進するとともに、各々の課題に国有林として率先して取り組むこととし、今後5年間の千曲川下流森林計画区における国有林野の管理経営に関する基本的な事項について定めるものである。

具体的な取組の実施にあたっては、国の地方支分部局、県、市町村などの行政機関と一層の連携を図るとともに、地域住民の理解と協力を得ながら、この計画に基づいて適切に行うこととする。

1 国有林野の管理経営に関する基本的な事項

(1) 国有林野の管理経営の基本方針

① 森林計画区の概要

本計画の対象は、千曲川下流森林計画区的全森林面積の30%にあたる国有林野48,818haである。

国有林野は長野県の北部に位置し、通称「北信」と呼ばれ、ナメコ等のキノコや山菜などの多様な森林資源を利用した食品加工業が重要な産業となっている地域である。

当地域は、千曲川の下流域に位置しており、新潟及び群馬両県県境稜線部の奥部地域にその多くが所在していることから、国土保全及び水源涵養等公益的機能の発揮に重要な役割を担っており、国有林野面積の91%が保安林に指定され、なかでも水源かん養保安林の割合が91%と高く地域の重要な水源地帯となっている。

また、特に山岳地帯は優れた自然景観を有していることから、上信越高原国立高原、妙高戸隠連山国立公園に指定されているとともに、戸隠高原やカヤの平などのレクリエーションの森なども整備され、森林浴等保健休養の場、スキー、登山等の場として県内外の多くの人々に利用されている。

国有林野の現況は、北部は豪雪地帯でありブナ等の広葉樹を主体とした天然林が多く、南部はスギ・カラマツ等を主体とした人工林となっている。人・天別面積では、人工林が9千ha、天然林が34千ha、その他（附帯地、貸地、岩石地等）が6千haとなっている。

② 国有林野の管理経営の現状及び評価

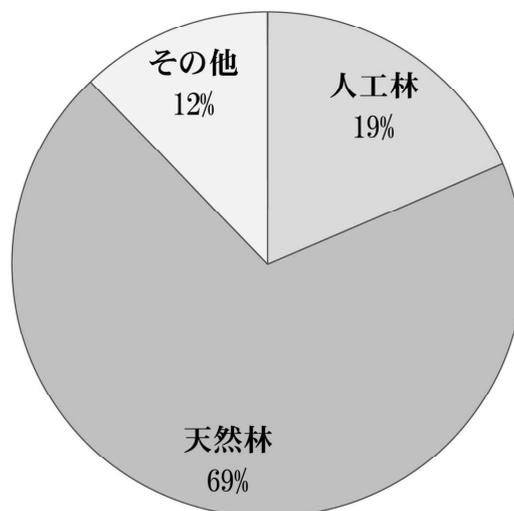
ア 森林計画区内の国有林野の現況

本森林計画区の人工林・天然林の分布（面積比）（27年3月時点）は、人工林の割合が19%、天然林の割合が69%、その他（附帯地、貸地、岩石地等）が12%となっている。（図－1参照）

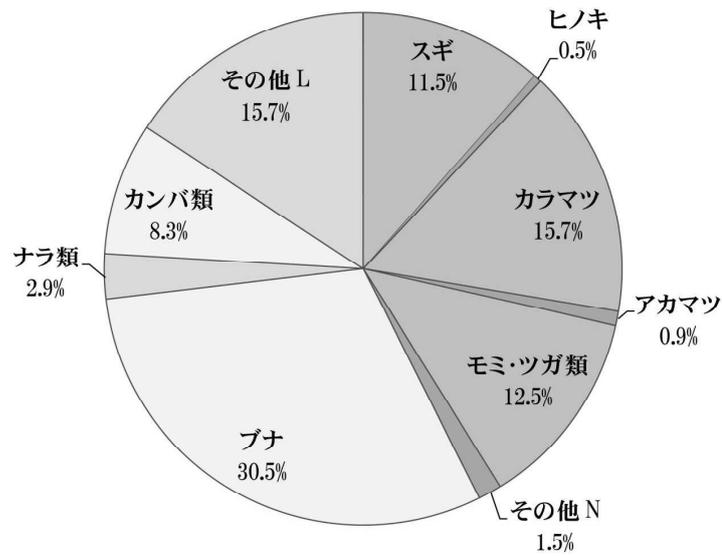
主な樹種としてはブナが31%、カラマツが16%、スギが12%、ツガ類が13%を占めている。（図－2参照）

また、人工林の齢級構成は7齢級から13齢級で79%を占めている。（図－3参照）

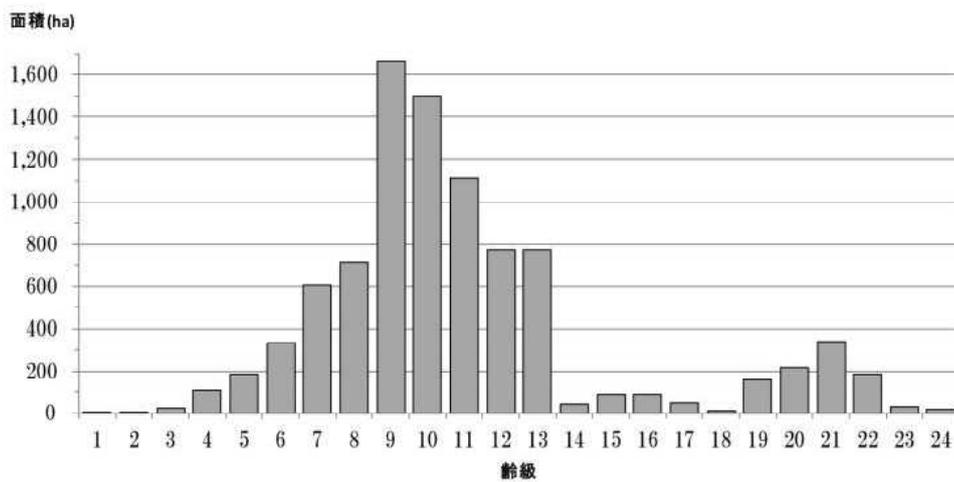
図－1 人工林・天然林の分布（面積比）



図－２ 主な樹種構成（材積比）



図－３ 人工林の齢級



注 1：構成（面積別）

注 2：齢級林齢（樹木の年齢）を 5 年の幅にくくったもの。

（1 齢級は 1～5 年、2 齢級は 6～10 年、10 齢級は 46～50 年となる）

イ 主要施策に関する評価

前計画の平成 22 年度～平成 26 年度の本計画区における主な計画と実行結果は次のとおりとなった。（平成 26 年度は実行予定を計上）

伐採のうち、特に間伐については、森林の健全性の確保と地球温暖化防止に向けた森林吸収源対策として積極的に取組を行った。

主伐、間伐に関しては、ともに現地調査の結果により収穫量が増加した森林があったことや、工事支障木等に伴う主伐もあったことから計画量を上回る結果となった。なお臨時伐採量を含めた伐採総量については、計画量を下回る結果となった。

更新総量のうち人工造林は、現地の状況から主伐を間伐へ変更した箇所があったこと等に

より計画量を下回り、天然更新については、本計画期間以前から継続して更新調査を行っていた森林が更新完了と認められたため、計画量を上回る結果となった。

保育総量のうち下刈については、植栽木の成長状況に応じた下刈を行ったことから下刈回数が増え、予定を上回る結果となった。その他の保育施業については、森林の状況に応じて必要な施業を実施した。

林道に関しては、一定の予算の中で主伐・間伐等の時期等を勘案し、局内の優先順位を考慮したこと、また事業実行のため早期復旧等が必要な箇所では優先的に事業を行ったことから、開設・改良共に計画量を下回る結果となった。

項 目	計 画	実 績	実施率
伐採総量 (単位:m3)	221,760	207,860	94%
主伐	6,074	16,720	
間伐	188,458	191,140	
臨時伐採量	27,228	—	
更新総量 (単位:ha)	26	24	92%
人工造林	12	5	42%
天然更新	14	19	135%
保育総量 (単位:ha)	77	134	174%
下刈	77	134	174%
つる切・除伐・枝打	1,119	775	69%
林 道			
開設 (単位:m)	20,280	9,124	45%
改良 (単位:箇所)	52	17	33%

注1：伐採総量のうち臨時伐採量とは、事業の支障木や被害木など、あらかじめ箇所ごとの伐採量を見込むことが困難なもので実績の集計上、主伐・間伐に整理している。

注2：単位未満四捨五入により計と内訳の面積は一致しない場合がある。

③ 持続可能な森林経営の実施方向

国有林野の管理経営に当たっては、開かれた「国民の森林^{もり}」の実現を図り、現世代とともに将来世代へ森林からの恩恵を伝えるため、住民の方々の意見を聴き、機能類型区分に応じた森林の適切な整備・保全等による持続可能な森林経営に取り組んでいくこととする。

また、持続可能な森林経営については、日本はモンテリオール・プロセス（注）に参画しており、この中で国全体として客観的に評価するための7基準（54指標）が示されている。

本計画区内の国有林野においては、この基準を参考として、次のような森林の取扱方針に基づいて各般の取組を推進していくこととする。

ア 生物多様性の保全

地域の特性に応じた多様な森林生態系を保全していくため、針広混交林等多様な林相の森林を整備・保全していくとともに、貴重な野生動植物が生息・生育する森林について適切に保護するほか、施業を行うにあたっては適切な配慮を行う。

主な取組は、次のとおりである。

- ・人工林の針広混交林化等の多様な森林整備
- ・皆伐箇所の小面積分散化と帯状伐採との組み合わせによる森林のモザイク的配置
- ・保護林や緑の回廊における保全・管理、モニタリング調査の実施
- ・希少猛禽類が生息する区域における施業時期への配慮

イ 森林生態系の生産力の維持

森林としての成長力を維持し、木材生産力が高い健全な森林を整備していくため、間伐等の適切な実施と伐採後の更新確保による健全な森林の整備とともに、公益的機能の発揮と両立した木材の生産を行う。

主な取組は、次のとおりである。

- ・一定林齢に達した人工林の主伐・間伐を積極的に推進
- ・主伐後の確実な植栽又は天然力を活用した更新
- ・計画的な森林整備
- ・森林の管理、効率的な森林整備を可能とする路網の整備

ウ 森林生態系の健全性と活力の維持

外部環境から受ける影響から森林の劣化を防ぐため、森林病虫害や野生鳥獣、山火事等から森林を保全するとともに、被害を受けた森林の回復を行う。

主な取組は、次のとおりである。

- ・森林病虫害等による被害の早期発見や山火事防止のための巡視
- ・松くい虫、ナラ枯れ等の森林病虫害による被害対策
- ・ニホンジカ、ツキノワグマ等の野生鳥獣による食害・剥皮防止対策

エ 土壌及び水資源の保全と維持等

降雨に伴う侵食等から根や表土を保全する森林や、下層植生の発達した森林の維持を推進する。また、水源涵養機能^{かん}の発揮のため、人工林における間伐の積極的な実施、広葉樹の導入による育成複層林への誘導、尾根筋や沢沿いでの森林の存置等を推進する。また、山地災害で被害を受けた森林の整備・復旧を迅速に行う。

主な取組は、次のとおりである。

- ・伐採跡地の確実な更新
- ・沢沿い、急傾斜地等における皆伐の回避
- ・伐期の長期化による裸地状態の減少
- ・下層植生の発達を促すための抜き伐り等
- ・治山事業の計画的な実施及び災害時における迅速な復旧対策の実施

オ 地球的炭素循環への森林の寄与の維持

二酸化炭素の吸収源、貯蔵庫となる森林を確保するため、適切な整備を行い森林の蓄積を向上させるとともに木材利用を推進する。また、将来にわたる吸収作用の保全及び強化を図る観点から森林資源の若返りを図る。

主な取組は、次のとおりである。

- ・造林・間伐等の森林整備の推進

- ・木材利用の推進・普及啓発
- ・主伐及び伐採後の再生林による森林資源の若返り

カ 社会の要望を満たす長期的・多面的な社会・経済的便益の維持及び増進

国民の森林に対する期待に応えるため、森林が有する多面的機能の効果的な発揮とともに、森林浴や森林ボランティア、森林環境教育等、森林と人とのふれあいの場の確保のためのフィールド提供や森林施業に関する技術開発等に取り組む。

主な取組は、次のとおりである。

- ・機能類型区分に応じた適切な森林の管理経営
- ・森林づくり活動のフィールドの提供
- ・レクリエーションの森の提供と利用促進

キ 森林の保全と持続可能な経営のための法的、制度的及び経済的枠組

ア～カに記述した内容を着実に実行し、「国民の森林」として開かれた管理経営を行うため、国有林野に関連する法制度に基づく各計画制度の適切な運用はもとより、管理経営の実施に当たっては国民の意見を聴きながら進めるとともに、モニタリング等を通じて森林資源の状況を把握する。

主な取組は、次のとおりである。

- ・地域管理経営計画等に基づいた適正な管理経営
- ・法令制限林に基づく森林の適切な管理
- ・「国有林モニター」の設置や計画策定に当たっての地域住民等からの意見聴取

注：モントリオール・プロセス

1992年の地球サミットで採択された「森林原則声明」を具体化するため、温帯林等の持続可能な経営のための基準・指標の作成と活用を進めることを目的として、1993年に始められた自主的な国際的取組のこと。我が国を含め、米国、カナダ、ロシア、中国などの12カ国が参加している。

④ 政策課題への対応

山地災害の防止や地球温暖化防止、生物多様性の保全、木材の安定的な供給等地域から求められる国有林野事業への期待に応えていくため、次のとおり計画区内での主な個別政策課題へ対応していくことを目標とする。

ア 公益重視の管理経営のより一層の推進

山地災害防止等の観点から荒廃した溪流等について、溪間工等の治山事業を実施するとともに、水土保持機能の維持を図るため、山地災害防止タイプ等を対象に森林整備を実施する。

また、地球温暖化防止や生物多様性保全の観点から人工林を対象に主伐による森林の更新や間伐等の森林整備を実施するほか、天然林についてはその保全に努める。

さらに、野生鳥獣との共存や生物多様性保全に資する森林施業への取組を推進するとともに、保護林や緑の回廊において継続的なモニタリング調査を行い保全措置を実施する。

加えて、レクリエーションの森等において歩道の整備・修繕等の対策を行うほか、学校等と連携した森林環境教育を実施する。

イ 森林・林業再生への貢献

効率的かつ効果的な森林整備を行い、必要な路網整備を実施するとともに、循環型社会の構築のためカーボンニュートラルな資源である木材の計画的かつ安定的な供給に努める。

また、民有林と連携した施業を推進するため、森林共同施業団地の設定等により民有林・国有林が一体となった生産目標の設定、効率的な路網整備等の森林施業の合理化や木材の協調出荷に取り組むこととする。

ウ 山村地域の振興

地域の産業の育成や文化の継承にも資する森林の整備や国有林野の活用、森林空間の総合利用等を通じて、林業・木材産業をはじめとする地域産業の振興、住民福祉の向上等の寄与に努める。

(2)機能類型に応じた管理経営に関する事項

① 国有林野の機能類型区分と管理経営の考え方

国有林野の管理経営に当たっては、公益重視の管理経営の一層の推進を旨とし、重視すべき機能に応じ、国有林野の機能類型区分を行い、いわゆる公益林として管理経営を行うこととする。

具体的には国有林の地域別の森林計画に定める公益的機能別施業森林の区域との整合に留意しつつ、国有林野を次の5つの機能類型に区分し、民有林の森林施業との連携に配慮しつつ区分に即した健全で活力のある森林の整備を推進し、それぞれの目的に応じて適切な管理経営を行うこととする。

機能類型		公益的機能別施業森林
山地災害 防止タイプ	土砂流出・ 崩壊防備エリア	土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林、水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林
	気象害防備 エリア	土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林、快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林、水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林（立地条件（海岸）により除外する場合もある。）
自然維持タイプ		保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林、水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林、（立地条件により、土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林を含む場合がある。）
森林空間利用タイプ		保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林、水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林、（立地条件により、土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林を含む場合がある。）
快適環境形成タイプ		快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林、水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林（立地条件（都市部）により除外する場合もある。）
水源涵養タイプ		水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林（分収林・共用林野については、契約等に基づく取扱いを要する区域として明示）

また、主伐・間伐等の推進、伐採年齢の長期化、複数の樹種及び樹冠層から成る複層状態の森林の整備、小面積・モザイク的配置に留意した施業、針葉樹と広葉樹の混交を促進する施業を行うなど、天然更新等を活用しつつ、災害に強い国土基盤の形成や良質な水の安定供給の確保、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、自然再生、国民と森林とのふれあいの場

の提供、森林景観の保全等の観点を重視した管理経営を計画的かつ効率的に実施することとする。

さらに、国民の安全と安心を確保するため、今後とも民有林治山事業等との連携の下に治山事業を計画的に推進することとする。

大規模な山地災害発生時には専門技術を有した職員を現地に派遣するなどし、国有林防災ボランティアの協力も得つつ、迅速な災害対策、二次災害防止対策を図ることとする。

林道等の路網については、林産物の搬出、森林の育成のみならず、森林の適切な保全管理等を効率的に行うために必要であり、森林の公益的機能が高度に発揮されるよう自然条件、作業システム等に応じた整備を推進する。

併せて、間伐等の森林整備、齢級構成の平準化や地域のニーズ等に応じて必要な主伐の計画的な実施など、機能類型に応じた適切な施業の結果得られる木材を、地域の安定供給体制の整備等の施策の推進に寄与するよう計画的に供給していくこととする。

② 機能類型ごとの管理経営に関する方向

ア 山地災害防止タイプに関する事項

山地災害防止タイプについては、次の2つのエリアに区分して取り扱うこととする。

(ア) 土砂流出・崩壊防備エリア

土砂流出・崩壊防備エリアの国有林野（本計画区の15%）は、主に土砂の流出、崩壊の防備等山地災害防止機能の発揮を第一とし、そのため、根系が深くかつ広く発達し、下層植生の発達が良好な森林等を目標として、管理経営を行うこととする。

具体的には

- a 針広混交林や樹木の根系が深くかつ広く発達した森林、下層植生の発達が良好な森林は、現状を維持することとする。
- b 天然力の活用によりの確な更新が図られると認められる林分については、育成複層林及び天然生林へ導くための施業によることとし、択伐等によって、針葉樹・広葉樹、深根性樹種・浅根性樹種が混交するように努めることとする。
- c スギ・カラマツ等の人工林については、択伐・間伐等により育成複層林へ導くための施業等を実施し、針広混交林への誘導に努めることとする。

(イ) 気象害防備エリア

気象害防備エリアの国有林野（本計画区の20%）は、主に風害、濃霧等の気象害による居住・産業活動に係る環境の悪化の防備を第一とし、そのため樹高が高く下枝が密生しているなど遮蔽能力が高く諸害に対する抵抗性の高い樹種によって構成される森林を目標として、管理経営を行うこととする。

具体的には

- a 人工林については、育成単層林及び育成複層林へ導くための施業によることとする。
- b 天然力の活用によりの確な更新が図られると認められる林分については、育成複層林及び天然生林へ導くための施業によることとする。
- c 気象害防備に有効な幅を有する森林を維持するため、異なる樹齢により構成される林木からなる森林の造成に努めることとする。

山地災害防止タイプの面積

(単位：ha)

区 分	山地災害防止タイプ	うち、	
		土砂流出 ・崩壊防備エリア	気象害防備エリア
面 積	17,355	7,395	9,960

イ 自然維持タイプに関する事項

自然維持タイプの国有林野（本計画区の34%）は、貴重な森林生態系の維持等生物多様性の保全機能の発揮を第一とし、そのため良好な自然環境を保持する森林、希少な動植物の生息・生育に適している森林等を目標として、管理経営を行うこととする。

具体的には

- a 森林施業は原則として現況の森林を維持することを目的とした天然生林へ導くための施業として自然の推移に委ねる管理を行うこととする。
- b 国内希少野生動植物種であるイヌワシの生息域やカヤの平等のブナの保存に必要な森林等を引き続き保護林として適切に管理する。

自然維持タイプの面積

(単位：ha)

区 分	自然維持タイプ	うち、保護林	
面 積	16,381	14,847	

ウ 森林空間利用タイプに関する事項

森林空間利用タイプの国有林野（本計画区の18%）は、主に森林とのふれあいを通じた森林と人との共生を図る等保健・レクリエーション機能又は文化機能の発揮を第一とし、そのため多様な樹種からなり、周辺の山岳や溪谷等と一体となって優れた自然美を構成する森林等を目標として、森林の利用形態等に応じた多様な森林を維持・造成することとする。

具体的には

- a 天然生林へ導くための施業によるほか、カラマツ人工林等については、原則として育成複層林へ導くための施業を行うこととし、間伐等による針広混交林化、自然観察等に適した森林の造成や修景などを推進する。
- b 国民の保健・文化・教育的利用に供するための施設又は森林の整備を行うことが適当と認められるカヤの平、戸隠・大峰自然休養林等を引き続きレクリエーションの森とし

て適切に管理し、広く国民に開かれた利用の場に供することとする。

森林空間利用タイプの面積

(単位：h a)

区分	森林空間利用タイプ	うち、レクリエーションの森
面積	8,613	5,865

エ 快適環境形成タイプに関する事項

該当なし

オ 水源涵養^{かん}タイプに関する事項

水源涵養^{かん}タイプの国有林野（本計画区の13%）は、主に渇水緩和や水質保全等水源涵養^{かん}機能の発揮を第一とし、浸透・保水能力の高い森林土壌の維持及び根系、下層植生の発達が良好で、諸被害に強い森林を目標とし、それぞれの森林の現況等に応じた森林施業を行うこととする。

なお、水源涵養^{かん}機能の発揮に留意しつつ、森林資源の有効利用も図ることとする。

具体的には

- a 周辺の森林資源の状況等から、将来にわたって人為を積極的に加えていくことが適切と判断されるスギ、カラマツの育成単層林においては、伐期の長期化を図り間伐を繰り返すなかで、下層植生が発達した林分構造を維持しつつ、健全な育成単層林を維持するための施業を実施することとする。
- b 比較的傾斜が緩く下層植生が豊かで、皆伐を行っても表土の流亡等のおそれのない林分については、伐採箇所のモザイク的配置に留意しつつ小面積分散型の施業を実施することとする。
- c 特定の水源の保全、景観維持等を図るために必要な林分については、複層伐等により育成複層林へ導くための施業を行い、複数の樹冠層を構成する森林に誘導することとする。
- d 天然林においては、人為あるいは天然力を活用した更新が可能な林分について、択伐等により育成複層林及び天然生林へ導くための施業を行い、複数の樹種及び樹冠層を構成する森林に誘導することとする。

水源涵養^{かん}タイプの面積 (単位：h a)

区 分	水源涵養 ^{かん} タイプ
面 積	6, 4 6 2

なお、機能類型ごとの管理経営は、別冊〔管理経営の指針〕によることとする。

③ 地域ごとの機能類型の方向

本計画区における地域ごとの重点的に行うべき管理経営は次のとおりとする。

ア 中津川地域（岩菅、赤石澤国有林）

当地域は、苗場山(2,145m)、佐武流山(2,192m)、白砂山(2,140m)、岩菅山(2,295m)に囲まれた信濃川支流の中津川上流部を中心に広がっている12,152haの地域であり、苗場山に一部高層湿原地帯が見られるが、全体的に急峻地が多く、以下のとおり管理経営を行うこととする。

(ア) 小赤沢・栃川と檜俣川本流域に係る区域については、地形・地質等から山地災害防止機能を重点的に発揮させる山地災害防止タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。

(イ) 魚野川流域及び檜俣川本流域左岸域は、日本海型の森林から太平洋型に移行する推移帯に属し、森林帯は低山帯から亜高山帯という垂直配列をなし、各森林が広域によく発達していること等から、佐武流山周辺森林生態系保護地域に指定し、自然環境の保全機能を重点的に発揮させる自然維持タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。

(ウ) 上記以外の地域については、水源涵養^{かん}機能を重点的に発揮させる水源涵養^{かん}タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。

イ 鳥甲地域（巢鷹山、北の入、水尾山、池の沢、毛無山、鳥甲、木島山、往郷山、二ツ橋、苧畑国有林）

当地域は、高倉山(1,326m)、鳥甲山(2,038m)と団地の中央部に連なる毛無山(1,650m)、高標山(1,747m)を中心とした13,536haの地域であり、地形は緩急錯綜しており、以下のとおり管理経営を行うこととする。

(ア) 毛無山から鳥甲山に至る稜線の東から北側斜面、高倉山の西側、馬曲川流域、高標山南部の区域及び鳥甲山南山麓部分については、地形が急峻であり、山地災害防止機能を重点的に発揮させる山地災害防止タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。

(イ) 鳥甲山周辺は急峻で特異な地形であることから、長野県自然環境保全地域の特別地区になっており、特定地理等保護林にも指定している。また、カヤの平はブナの原生林やシラカバの群生林が広がり、貴重な湿原植物が生育していることからカヤの平自然休養

林（自然休養林内の遊歩道は森林セラピーロードとして活用。）に指定している。さらに、清水平林道沿い（150林班）及び野沢温泉スキー場内のブナの天然林を「郷土の森」に設定していることから、これらの地域については、自然環境の保全機能を重点的に発揮させる自然維持タイプに区分し、管理経営を行うこととする。

（ウ） 毛無山北部の上ノ平地域（野沢温泉スキー場）と標高1,200mから1,500m付近のカヤの平高原を結ぶ一帯は、スキー利用客をはじめ、四季を通じて行楽客が多い地域であることから、保健文化機能を重点的に発揮させる森林空間利用タイプに区分し、管理経営を行うこととする。

（エ） 上記以外の地域については、水源涵養機能を重点的に発揮させる水源涵養タイプに区分し、管理経営を行うこととする。

ウ 関田地域（中山峰、豊栄山、照岡山、大神楽、姥ヶ嶽、豊田山、大倉国有林）

当地域は、新潟県に接する長野県の最北端に位置し、関田山系の稜線部に沿って細長く広がり、地形は全般的に急峻で多数の小河川がある2,506haの地域であり、以下のとおり管理経営を行うこととする。

（ア） 関田峠以東及び当地域南端地域は、山地災害防止機能を重点的に発揮させる山地災害防止タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。

（イ） 地域の中央部に位置する鍋倉山周辺のブナの天然林を「郷土の森」に設定しており、自然環境の保全機能を重点的に発揮させる自然維持タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。

（ウ） 関田山脈にはトレッキングコース（信越トレイル）が整備され、また、茶屋池周辺の遊歩道は森林セラピーロードとしてそれぞれ活用されている。関田峠から戸狩温泉スキー場までの区域及び地域北部の野々海池周辺は保健文化機能を重点的に発揮させる森林空間利用タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。

エ 高社山地域（高社山国有林）

当地域は、高社山（1,351m）の北側に広がる272haの地域で、地域的に飯山市、中野市等の市街地からの利便性も良いこと等からレクリエーションの場の適地であり、保健文化機能を重点的に発揮させる森林空間利用タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。

オ 大平峰地域（大平峰国有林）

当地域は、飯山市の西方、新潟県境に位置する106haの小地域である。斑尾高原の一画をなしており、保健文化機能を重点的に発揮させる森林空間利用タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。

カ 内山地域（内山国有林）

当地域は、主要地方道「飯山野沢温泉線」の東方にある167haの小地域であり、以下のとおり管理経営を行うこととする。

- (ア) 北竜湖の背景林として優れた景観美を見せていること及び遊歩道を森林セラピーロードとして活用していること等から保健文化機能を重点的に発揮させる森林空間利用タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。
- (イ) 中央部付近の尾根筋の植物群落保護林は自然環境の保全機能を重点的に発揮させる自然維持タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。

キ 笠ヶ岳地域（笠ヶ岳国有林）

当地域は、志賀高原の南側に位置する笠ヶ岳の北面に広がる180 haの小地域である。

全域が上信越高原国立公園に指定され、特徴のある山容を呈しており、特定地理等保護林に指定していること等から、自然環境の保全機能を重点的に発揮させる自然維持タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。

ク 戸隠・黒姫・飯縄地域（黒姫山、戸隠山、飯縄山、霊仙寺山国有林）

当地域は、戸隠山(1,904m)、黒姫山(2,053m)、飯縄山(1,917m)等を中心とする裾花川、鳥居川、関川の源流部に位置する15,697haの地域である。裾花川源流部及び戸隠山塊は、急峻な地形となっているが、対照的に黒姫山及び飯縄山周辺は、起伏も少なく、ほとんどが裾野地形の緩傾斜地となっており、以下のとおり管理経営を行うこととする。

- (ア) 地形が急峻な裾花川源流部や、過去に土砂災害の発生した屏風沢流域、鳥居川沿い及び関川沿いの一部は、山地災害防止機能を重点的に発揮させる山地災害防止タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。
- (イ) 黒姫山、飯縄山はなだらかな山容で、これらの山頂部分は、特定地理等保護林等に指定していること、山麓の戸隠森林植物園内の森林については、林木遺伝資源保存林及び特定動物生息地保護林に指定していることから、自然環境の保全機能を重点的に発揮させる自然維持タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。
- (ウ) 当地域の中心部には、スキー場、野営場、森林植物園等を主要な利用施設として設定した戸隠・大峰自然休養林がある。また、周辺には多数のスキー場、教育施設や別荘地、ペンション村等があり、森林のレクリエーション的利用や、森林セラピー基地、森林セラピーロードとしての利用が進んでいることから、自然休養林を中心とする一帯については、保健文化機能を重点的に発揮させる森林空間利用タイプとして区分し管理経営を行うこととする。
- (エ) 長野市等の上水道の水源地である男鹿沢流域や上楠川集落上流の掛札川流域、鳥居川沿いの中腹部及び黒姫山山麓等その他の地域については、水源涵養機能を重点的に発揮させる水源涵養タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。

ケ 保科山地域（保科山国有林）

当地域は、千曲川支流の保科川源流部に位置しており、地質が脆弱なことから、地域の大半は保安林及び砂防指定地に指定されている1,348haの地域であり、以下のとおり管理経営を行うこととする。

(ア) 保科川の国有林下流部には、保科温泉をはじめ住宅団地等があり、山地災害防止上重要な位置にあることから、山地災害防止機能を重点的に発揮させる山地災害防止タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。

(イ) その他の地域は、水源涵養機能を重点的に発揮させる水源涵養^{かん}タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。

コ 米子地域（米子山国有林）

当地域は須坂市の東側に位置し、四阿山を主峰とした米子川源流部に位置する1,796haの地域で、昭和38年に取得した買入保安林であり、以下のとおり管理経営を行うこととする。

(ア) 地形は大小の爆裂火口跡があり険しい断崖が見られ、また地域の広範な区域にわたって地質が脆弱となっており、各所に崩壊地が見られることから、山地災害防止機能を重点的に発揮させる山地災害防止タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。

(イ) 米子川上流の区域は、特定動物生息地保護林に指定するとともに、山地災害防止機能の発揮にも配慮しつつ、自然環境の保全機能を重点的に発揮させる自然維持タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。

サ 高山地域（高山国有林）

当地域は、高山村の東側に位置し、笠ヶ岳と渋峠、万座山を結ぶ群馬県境とに接し、千曲川支流の松川源流部に位置する830haの地域で、昭和54年に取得した買入保安林であり、地質が脆弱で、崩壊地が多数点在していることから、山地災害防止機能を重点的に発揮させる山地災害防止タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。

シ 大峰山・朝日山地域（大峰山、朝日山国有林）

当地域は、長野市街地の西側に位置し、裾花川を挟んで相対する、大峰山並びに朝日山の中腹以上に位置する225haの二つの小地域であり、都市近郊林として重要な位置にあること、また、大峰山を戸隠・大峰自然休養林に指定しており、森林レクリエーションの場としての利用も多いことから、保健文化機能を重点的に発揮させる森林空間利用タイプとして区分し、管理経営を行うこととする。

(3) 森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた貢献に必要な事項

民有林関係者等と連携して推進する森林の流域管理システムの下、千曲川下流流域林業活性化協議会等の場を通じ、県、市町村等との密接な連携を図りながら、我が国の森林・林業の再生に貢献していくものとする。このため、民有林に係る施策との一体的な推進を図りつつ、組織・技術力・資源を活用した民有林の経営に対する支援等に積極的に取り組むこととする。

具体的には、当流域では、低コスト作業システムの紹介や、ボランティア団体等が実施する森林学習のフィールドの提供などの要望があることから、低コスト作業システムについての現地検討会等の実施や、ボランティア団体等への活動の場の提供等に優先的に取り組むこととする。また、県、市町村等との情報連絡を図り流域の課題や地域ニーズの的確な把握に努めつつ、市町村森林整備計画の作成の支援に努めることとする。

このような中で、以下に掲げる事項に重点的に取り組むこととする。

① 低コスト化を実現する施業モデルの展開と普及

地域ごとの状況を踏まえた、低コストで効率的な作業システムの提案・検証等により収穫量の増大にも対応できる低コスト化を図るとともに、民有林における普及・定着に努めこととする。

② 林業事業者の育成

計画的な事業の発注や、間伐事業における「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」に基づく複数年契約（3カ年）の実施等による林業事業者の育成に取り組む。

③ 民有林と連携した施業の推進

民有林と連携した施業を推進するため、森林共同施業団地の設定等により、民有林・国有林が一体となった生産目標の設定や、効率的な路網整備等の森林施業等の共通化を図り、施業の合理化に積極的に取り組む。

森林共同施業団地設定状況

箇所数	面積（単位：h a）	
	国有林	民有林
1	4 6 6	3 8 4

④ 森林・林業技術者等の育成

国有林野事業において専門的かつ高度な知識・技術と現場経験を有する森林総合監理士（フォレスター）等を系統的に育成する。また、事業の発注や国有林野の多種多様なフィールドの提供等を通じて民有林の人材育成を支援するとともに、大学等関係機関と連携した取組を推進する。

⑤ 林業の低コスト化等に向けた技術開発

コンテナ苗を活用し、伐採から造林までを同時期に行う「一貫作業システム」、低コスト造林手法や環境への負荷の少ない路網整備、地域の課題に対応した技術開発など、林業の低コスト化に向けた技術開発に取り組む。

⑥ その他

ア 公共建築物や公共事業における資材、あるいは木質バイオマス等としての木材利用の拡大を推進するとともに、そのために必要な木材の計画的・安定的供給に努める。

イ 山地の荒廃状況等の安全・安心に関わる情報の提供等に努める。

ウ 野生鳥獣との共存や生物多様性保全に資する森林施業への取組を推進する。

エ 本計画区の森林の整備や保全を図るため、地元市町村やボランティア団体等と一体となった取組を推進する。

オ 国民各層への森林・林業の理解を深めるため、レクリエーションの森等森林の利用の促進や体験林業等を通じた森林環境教育を推進する。

(4) 主要事業の実施に関する事項

本計画期間における伐採、更新、保育、林道の事業総量は以下のとおりであり、これらを適切に実施することにより、健全な森林の育成・整備に努めることとする。

なお、事業の実施にあたっては、公益重視の管理経営の一層の推進や森林・林業再生への貢献を基本方針とし、地域管理経営計画等に基づく、計画的な事業の実行に努めることとし、その際、低コストで効率的な作業システムの定着等を通じた木材生産等の低コスト化を推進するなど、民有林行政との連携を図りつつ計画的かつ効率的な事業の実行を図ることとする。また、安全・健康管理対策を推進することとする。

① 伐採総量 (単位：m³・ha)

区分	主伐	間伐	計
計	103,525 《28,121》	157,275 (1,604)	260,800

注1：() は、間伐面積である。

注2：《 》 は臨時伐採量の数値(うち数)である。

② 更新総量 (単位：ha)

区分	人工造林	天然更新	計
計	103	—	103

③ 保育総量 (単位：ha)

区分	下刈	つる切	除伐	枝打
計	398	117	207	—

④ 林道の開設及び改良総量

区 分	開 設		改 良	
	路線数	延長量 (m)	箇所数	延長量 (m)
計	13	13,805	51	1,445

(5) その他必要な事項

① 国民の森林としての管理経営

国有林野の管理経営にあたっては、国有林を「国民の森林」としての位置づけの下、生物多様性の保全等の新たな課題を踏まえつつ、国民に開かれた管理経営を推進することとする。

その際、多様で豊かな自然環境や森林・林業に関する知識と経験を備えた人材等を活用しつつ、森林環境教育の推進、森林とのふれあいや国民参加の森林づくり等国民の要請に機動的・弾力的に対応することとする。

また、開かれた「国民の森林」として管理経営の透明性を確保するため、計画策定等の機会を通じて広く住民等の意見を聴くなど国民の理解を促進するための取組を進めるとともに、計画の実施状況の周知とそれに対する意見を聴くなど、次期計画の作成に向けた取組を進めることとする。

さらに、一般国民から公募する「国有林モニター」制度の活用等による双方向の情報受発信等の取組を推進することとする。

② 地球温暖化防止対策の推進

地球温暖化防止に貢献するため、吸収源となる森林の整備や木材利用等の推進に率先して取り組むこととする。特に今後、人工林の高齢級化に伴う二酸化炭素の吸収量の低下や資源の成熟に伴い、将来にわたる吸収作用の保全及び強化を図る必要があることから、効率的かつ効果的な再造林手法の導入・普及等に努めるとともに、主伐及び主伐後の再造林により、森林資源の若返りを図る。

③ 生物多様性の保全

原生的な天然生林や貴重な野生動植物が生息・生育する森林については、厳格な保全・管理を行うとともに、その他の森林については適切な主伐・間伐の実施、針広混交林化、複層林化、長伐期化や里山等の積極的な整備を行うなど、森林の状況に基づき、多様で健全な森林の整備・保全を推進することとする。

具体的には、千曲川下流に位置する本計画区の国有林野には豊かな森林生態系を有する佐武流山、カヤの平や戸隠連峰を含んでいることから、これらのカヤの平のブナ、佐武流山や戸隠山周辺の貴重な植物群落が生育する森林等については保護林や緑の回廊として適切に保全・管理を推進することとする。その他の森林については、適切な主伐・間伐の実施、針広混交林化、長伐期化等多様で健全な森林の整備・保全を推進することとする。

また、溪流等水辺の森林等については、その連続性を確保することにより、よりきめ細やかな森林生態系ネットワークの形成に努めることとする。

さらに、自然災害等により劣化した森林の再生・復元、野生鳥獣被害対策、荒廃した植生の回復、利用者に対する利用ルールについての理解の醸成などに地域とも協働・連携し取り組むよ

う努めることとする。

④ 治山事業の計画的な実施

本計画区は戸隠高原や野沢温泉スキー場などの観光地を有し山岳レクリエーションや保健休養の場等に利用される重要な地域でもあり、国有林に近接して国道等の保全対象が多いことから、山地荒廃が生活・産業に及ぼす影響が大きい。

このようなことから、国民の安全・安心を確保するため、山地災害による被害を防止・軽減する事前防災・減災の考え方に立ち、既往の荒廃地や流域の荒廃状況および保全対象等を見極めつつ、民有林治山事業や他の国土保全施策との連携の下に治山事業を計画的に推進する。

また、自然環境の保全や豊かな環境づくりなど森林が持つ多面的機能を高度に発揮させることを基本方針として、森林整備事業等との密接な連携を図ることとする。

さらに、実施にあたっては木材等を利用した工法の導入やコスト縮減に努めるとともに、労働安全衛生の確保に努めることとする。

2 国有林野の維持及び保存に関する事項

(1) 巡視に関する事項

① 山火事防止等の森林保全巡視

ア 本計画区は、優れた自然景観を呈する森林等が多く、レクリエーションの森の利用等入林者も多い。特に春季は入林者が多くなっていく時期と乾燥期が重なり山火事発生危険性が增大するため、地元市町村等と連携を密にして山火事防止の啓発活動及び巡視を行うこととする。

イ 動植物の保護、自然環境の保全や不法投棄防止の啓発等に努め、特に利用者が増加するシーズンには林野巡視等を強化することとする。

② 境界等の保全管理

国有林野の適切な管理経営のため、境界標、標識類の巡検及び巡視、貸付地等の状況把握を行うこととする。

また、森林の適切な管理のために必要な歩道の維持管理に努めることとする。

(2) 森林病虫害の駆除又はそのまん延の防止に関する事項

森林病虫害による森林被害については、被害の早期発見に努めるとともに、適切かつ効果的な防除に努めることとする。

松くい虫被害は被害木の伐倒処理等を実施している。今後も松くい虫被害地域の拡大防止を図るため、森林病虫害防除対策協議会等の場を通じた民有林との連携の下に被害木の伐倒、薬剤処理等により効果的な防除を実施することとする。特に朝日山・大峰山国有林は長野市民のシンボル、故郷の山としてイメージされ、親しまれていることから、重点的に被害防止に努めることとする。

カシノナガキクイムシによる被害については、被害状況の把握に努め、関係機関と協議しながら防除対策を検討する。

(3)特に保護を図るべき森林に関する事項

① 保護林

ア 希少な野生動植物の生息・生育する森林の保全、生物多様性の保全等が一層重要となっていることから、引き続き保護林の適切な管理を通じて、優れた自然環境を有する森林等の適切な保全・管理に努めることとする。

具体的には、保護林の状況を的確に把握し、設定目的に照らして評価する観点から、保護林モニタリング調査を実施し、調査結果を蓄積することにより、個々の保護林の状況に応じたきめ細やかな保全・管理を推進することとする。

また、入林者の影響等による植生の荒廃の防止等が必要な箇所については、地域の関係者等との利用のルール確立等を図るとともに、その内容について広く理解を求める工夫を図るなど適切に対処する。

イ 本計画区には、管内で最も広大な「佐武流山周辺森林生態系保護地域」(8,839ha)など18箇所の保護林を設定している。

ウ 平成元年度に設定した「鍋倉山郷土の森」(21ha)は、ブナの純林であり、この森林の中には平成12年に「森の巨人たち100選」に選ばれた、「森太郎」(胸高直径170cm)があり、自然観察や森林浴などの場として多くの小中学生・市民等に親しまれている。

今後とも、立入が可能な区域においては、地方公共団体等と連携をとりつつ、学習の場等として利用できるよう施設の整備等に努めるほか、森林生態系や林業等に関する知識の普及啓発に努めることとする。

保護林

種 類	箇 所 数	面 積 (h a)
森林生態系保護地域	1	8, 839
林木遺伝資源保存林	2	79
植物群落保護林	5	1, 422
特定動物生息地保護林	2	1, 290
特定地理等保護林	4	3, 147
郷 土 の 森	4	69
総 数	18	14, 847

注1：単位未満四捨五入により計と内訳の面積は一致しない場合がある。

注2：各保護林の設定目的は、以下のとおりである。

- ・森林生態系保護地域：森林生態系の保存、野生動植物の保護、遺伝資源の保存等
- ・林木遺伝資源保存林：主要林業樹種と希少樹種等に係る遺伝資源の保存
- ・植物群落保護林：国又は地域の自然を代表する植物群落、歴史的・学術的価値の高い個体等の保護
- ・特定動物生息地保護林：希少化している野生動物とその生息地・繁殖地の保護
- ・特定地理等保護林：岩石の浸食や節理、温泉噴出物、氷河跡地の特殊な地形・地質の保護
- ・郷 土 の 森：地域の自然・文化のシンボルとしての森林の保護

② 緑の回廊

ア 中部山岳森林計画区あまかざりの雨飾・天狗原山植物群落保護林から、本森林計画区の戸隠山特定地理等保護林を結ぶ「緑の回廊雨飾・戸隠」について、野生動物の日常行動の把握、季節移動時の経路の確保、分断された個体の交流や個体群の遺伝的多様性の確保を図るとともに、植物についても動物による花粉媒介や種子散布を通じて交配拡大を図るなど、より広範で効果的な森林生態系の保護や生物多様性の保全に努める。

イ 緑の回廊内の森林の構造と野生動物の生息実態の関係を明らかにする観点からモニタリング調査等を行い、結果については、今後の緑の回廊の設定及び取扱いに反映させることとする。

緑の回廊

名 称		延長 (k m)	面 積 (h a)
雨飾・戸隠		1 7	3, 7 9 2
内	(千曲川下流森林計画区)		1, 8 0 8
訳	(中部山岳森林計画区)		1, 9 8 4

(4) その他必要な事項

① ニホンジカ等の被害対策

ア 近年長野県内においては、ニホンジカによる農林業被害、高山植物被害が顕著になっているが、本計画区内のニホンジカ被害については、森林の巡視等による早期発見に努めることとする。

また、ツキノワグマの被害については、剥皮等の被害を防止するテープ等の巻き付け、カモシカの被害については、忌避剤等の使用により、造林地等における食害を未然に防止することとする。

これらの被害状況に応じて、環境行政をはじめ、県・市町村・関係団体等と連携を図りつつ、適切な被害対策を講ずることとする。

イ 野ウサギ、野ネズミの被害及び病虫害等については、森林の巡視等による早期発見に努め、適切な防除に努めることとする。

② 溪畔周辺の取扱い

溪畔周辺については、野生生物の生息・生育場所や移動経路の提供、種子などの供給源等として、生物多様性の保全上重要な役割を担っているため、本来成立すべき植生による上流から下流までの連続性を確保することにより、よりきめ細やかな森林生態系ネットワークの形成に努めることとする。

③ 巨樹・巨木の保存

平成12年度に「森の巨人たち100選」に選定された^{せきた}関田地域のブナ「森太郎」について、飯山市等地元関係者による保全協議会等と連携して、次世代への財産として保存することとする。

3 林産物の供給に関する事項

(1) 林産物の安定的な取引関係の確立に関する事項

① 木材の安定供給

森林の持つ多面的機能の発揮の観点から、森林の主要な機能の一つである木材生産における間伐材等の利用促進にあたっては、列状間伐や高密度路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システムの定着を図りつつ、木材の生産・販売を実施することとする。

また、これまで間伐等で伐採されても利用されてこなかった小径木や造材後林内に放置されてきた根株・枝条などの未利用間伐材等について、再生可能エネルギーの固定価格買取制度が開始されたことを踏まえ「システム販売」等を活用し需要者等への安定供給に取り組む。

さらに、今後、人工林資源の成熟に伴う主伐の増加が見込まれており、こうした主伐材の安定供給や新たな需要開拓に貢献するものとなるよう効果的な供給に努めるものとする。

② 木材の利用

これまで利用が低位であった曲がり等を含む木材については、合板や集成材等の原料としての利用拡大に加え、土木分野における木材の利用範囲の拡大を推進する。

また、木材の適切な供給及び利用の確保を通じた林業の持続的かつ健全な発展を図ることを目的とした「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」の施行と、「新農林水産省木材利用推進計画」が策定されているところである。加えて、平成23年5月には国土交通省において、木造の官庁施設に適用するための「木造計画・設計基準」が定められているところでもある。

このため、庁舎等における木材利用の拡大に努めるとともに、治山事業等における森林土木工事にあたっては、木材を積極的に利用するなど、自ら木材の利用促進に取り組むこととし、併せて、これらの取組を通じて、管内の林業・木材産業関係者と連携しつつ、広く公共建築物等における木材利用の拡大と国民に対する積極的な啓発に努めることとする。

③ その他林産物の供給

環境緑化木等、国有林野に有する多様な資源については、公益的機能の発揮に配慮しつつ地域振興、資源の有効利用等の観点から適切な供給に努めることとする。

(2) 国産材の安定供給体制の構築に向けた貢献

林業・木材産業は、生産・流通・加工の各段階が、小規模・分散・多段階となっており、木材需要者のニーズに応じて、品質・性能の確かな製品を低コストで安定的に供給する体制を確立することが課題となっている。このことを踏まえ、国有林野事業においては、林産物の供給等を通じて、地域の川上・川中・川下の関係者との連携を強化し、国産材の安定的・効率的な供給体制の構築に寄与するように努めることとする。

また、木材の販売にあたっては、持続的・計画的に木材を供給する方針の下で、木材を政策的に供給しうる優位性を活かして、急激な木材価格の変動時の需要動向に対応して、供給調整

機能を発揮するため、地域や関係者の意見を迅速かつ的確に把握する等の取組を推進することとする。

4 国有林野の活用に関する事項

(1) 国有林野の活用の推進方針

本計画区は、上信越高原国立公園の志賀高原、妙高戸隠連山国立公園の戸隠高原等において森林レクリエーション資源が豊富なこと等から、地元自治体等と調整を図りながら国民の保健・文化・教育的利用を図るレクリエーションの森等の国有林野の活用を推進することとする。また、こうした取組の推進に当たっては、民間活力を生かした歩道等の施設整備を推進することとする。

レクリエーションの^{もり}森林

種 類	箇 所 数	面 積 (h a)
自 然 休 養 林	2	4, 0 7 8
自 然 観 察 教 育 林	1	7 5
野 外 ス ポ ー ツ 地 域	6	1, 2 8 0
風 景 林	4	3 8 2
風 致 探 勝 林	3	2 2 9
総 数	1 6	6, 0 4 5

注：単位未満四捨五入により計と内訳の面積は一致しない場合がある。

カヤの平等自然休養林等のレクリエーションの森については、山岳景観の探勝や登山など森林レクリエーションの場及び森林環境教育の場としての利用を一層推進することとする。

(2) 国有林野の活用の具体的手法

地域産業の振興、道路や砂防ダム敷等の公用・公共用・公益事業地としての活用については、地方公共団体等との情報交換を十分行いつつ、売払い等の手法により、法令等に基づき適切に実施していくこととする。

(3) その他必要な事項

活用にあたっては、森林の持つ公益的機能との調和を図り、併せて、地元市町村等が策定する土地利用計画等との必要な調整を図りつつ、推進することとする。

5 公益的機能維持増進協定に基づく林道の開設その他国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全に関する事項

(1) 公益的機能維持増進協定の締結に関する基本的な方針

国有林に隣接・介在する民有林の中には、小規模で孤立分散し立地条件が不利であること等

から森林所有者等による施業が行われず、当該民有林における土砂の流出等の発生が国有林の發揮する国土保全等の機能に悪影響を及ぼすなど、隣接する国有林の公益的機能の維持増進への支障となることが懸念される場合がある。

このような場合、国有林の有する公益的機能の維持増進を図るために有効かつ適切なものとして、森林施業の集約化を図るための林道や森林作業道の開設とこれらの路網を活用した間伐等の施業等を民有林と一体的に行い、民有林の有する公益的機能の維持増進にも寄与するよう、森林法第10条の15の規定による公益的機能維持増進協定制度の活用に努めることとする。

(2) 国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全に関する事項

公益的機能維持増進協定の締結にあたっては、森林法等に定める基準に適合するとともに、当該協定制度の趣旨等に鑑み、民有林の森林所有者等にも原則として相応の費用負担を求めるなど、合理的な役割分担の下での一体的な森林の整備及び保全の実施に向けた条件整備を進めることとする。

6 国民の参加による森林の整備に関する事項

多様で豊かな自然環境や森林・林業に関する知識と経験を備えた人材等を活用しつつ、森林環境教育の推進、森林とのふれあいや国民参加の森林づくり等、国民の要請に機動的・弾力的に対応することとする。

(1) 国民参加の森林に関する事項

NPO等が行う自主的な森林整備等へのフィールドの提供や必要な技術指導を行うなど国民による自主的な森林づくり活動を支援することとする。

① ふれあいの森

ボランティア団体、NPO等による自主的な森林整備活動等のフィールドの設定に向け市町村等との連携を図りつつ各種団体等への情報提供などのPR活動に積極的に取組むこととする。

設定箇所

名 称	面 積 (ha)	位 置 (林小班)
戸隠ふれあいの森	605	黒姫山国有林1024い林小班ほか 戸隠山国有林1028い林小班ほか

② 社会貢献の森

CSR（企業の社会的責任）活動等を目的とした植栽、保育等の森林整備活動等のフィールドの設定に向け、企業への情報提供などのPR活動に積極的に取組むこととする。

設定箇所

名 称	面 積 (ha)	位 置 (林小班)
森林・林業再生 モデル林	27	霊仙寺山国有林 1037ろ2林小班ほか

③ 木の文化を支える森

地域の伝統行事や文化の継承等に貢献するためのフィールドの設定に向け、市町村等への情報提供などのPR活動に積極的に取り組むこととする。

設定箇所

名 称	面 積 (h a)	位 置 (林小班)
道祖神祭りの森	15	池の沢国有林135い・ほ林小班
戸隠竹細工の森	390	戸隠山国有林1030へ林小班ほか

④ ^{ゆうゆう}遊々の森

森林環境教育の推進を目的とした森林教室、自然観察、体験林業等の体験活動のためのフィールドの設定に向け、学校等への情報提供などのPR活動に積極的に取り組むこととする。

設定箇所

名 称	面 積 (h a)	位 置 (林小班)
^{やまわら もり} 山童の森	14	霊仙寺山国有林1037ろ2林小班

⑤ 多様な活動の森

森林の保全を目的とした美化活動、自然観察、森林パトロール等、上記①～④に分類できない活動のフィールドの設定に向け、各種団体等への情報提供などのPR活動に積極的に取り組むこととする。

長野県と新潟県の県境にまたがる関田山脈において、NPO法人と北信・上越両森林管理署による協定に基づきトレッキングコースが整備・利用されており、今後もフィールドの提供等を通じて地域振興の寄与に努めることとする。

設定箇所

名 称	延 長 (k m)	位 置 (林 小 班)
関田トレイル	3 5	大神楽国有林 1 7 0 ほか林小班ほか

(2)分収林に関する事項

森林づくりに自ら参加・協力していこうとする国民や法人等の要求に応えるため、分収林制度を通じて国民参加の森林づくりを推進することとする。

特に都市部の一般企業等が社会貢献活動や社員教育の場として森林づくりを行う「法人の森林」などとしてのフィールドの提供に積極的に取組むこととする。

分収林の内訳

区 分	箇 所 数	面 積 (h a)
分収造林	5 8 (5)	3 1 2 (1 7)
分収育林	3 5 (1 4)	2 4 3 (1 4 6)
計	9 3 (1 9)	5 5 5 (1 6 3)

注：() は法人の森林の数値（うち数）である。

(3)その他必要な事項

① 森林環境教育の推進

ア 学校、県・市町村、企業、ボランティア団体、NPO、地域の森林所有者や森林組合などの民有林関係者等の多様な主体と連携しつつ森林環境教育の推進を図ることとし、次代を担う子供達はもとより国民全体で森林・林業を支えとの理解を醸成することを目標として学校等が国有林野で体験活動などを実施するための「遊々の森」の取組、林業体験や森林教室等の体験活動、森林の有する多面的機能に関する普及啓発、情報提供や技術指導等の多様な取組を推進することとする。

イ 教職員やボランティア団体のリーダー等に対する普及啓発や技術指導等、波及効果が期待される取組にも努めることとする。

② 緑づくり支援窓口の活性化

森林環境教育のためのプログラムやフィールドの提供、技術支援や指導者の紹介等、森林管理局、森林管理署等に設置した緑づくり支援窓口の活性化に努めることとする。

③ N P O等の支援の推進

N P O等が行う自主的な森林整備等へのフィールドの提供や必要な技術指導を行うなどにより、国民参加による国有林の積極的な利用を推進することとし、特に自然再生、森林環境教育に取り組むN P O等や教育関係者等の活動支援及び情報提供に努めることとする。

7 その他国有林野の管理経営に関し必要な事項

(1) 林業技術の開発、指導及び普及に関する事項

国有林野事業の中で開発、改良された林業技術については、各種試験地及び施業指標林の展示等を通じて地域の林業関係者等への指導及び普及を図ることとする。

また、林業技術の開発等にあたっては、地域・試験研究機関等のニーズを的確に把握し、国有林野のフィールドを活用しつつ、地域等と連携して推進することとする。

さらに、国有林野事業として、列状間伐や高密度路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システムの定着や低コスト造林・育林の開発・導入等を図り、それらの民有林への普及を図ることとする。

(2) 地域の振興に関する事項

国有林野は、国民共通の財産であるとともに、それぞれの地域における資源でもあり、地域振興への寄与は、国有林野事業の重要な使命の一つである。

こうした中で、地域の伝統産業の育成や地域の文化の継承にも資する森林の整備や林産物の供給、地域の農林業に多大な被害を与えている野生鳥獣への対策、国有林野の活用、森林空間の総合利用、人材育成をはじめとした民有林への指導やサポート、民有林材を含めた安定供給体制の構築等の取組は、地域の振興にも寄与するものである。

このため、こうした国有林野事業の諸活動と国有林野の多様な利活用、森林・林業再生への貢献を通じて、林業・木材産業をはじめとする地域産業の振興、住民の福祉の向上等に寄与するよう努めることとする。